ドイツの地でも輝く個の力と愛される人間力

明大スポーツ
9月28日　火曜日
令和3年（2021年）
第513号
明大スポーツ新聞
創刊　1953年
編集人　田中　佑太
東京都千代田区神田駿河台1の1
〒101-8301　TEL/FAX 03(3233)3788
http://meisupo.net/

㊂うどん丸香

◆サッカー部　史上唯一◆　在学中にFC東京に正式入団し、17年に明大を卒業した室屋選手。スポーツ推薦入学の選手が部を退部しながら明大を卒業した例は、サッカー部史上初めてだった

明スポ

100年の歴史が育んだ日本屈指の個

室屋成

日本サッカー協会が設立された1921年。時を同じくして創部されたサッカー部が今年度、100年目を迎える。大学史上初の関東5冠を獲得し、過去5年で計41人をプロの舞台へ送り出した。明大を大学サッカー界の王者たらしめるのは、圧倒的な個の力と研ぎ澄まされた人間力。日本代表DF室屋成選手（平29政経卒・現ハノーファー96）と恩師の神川明彦前監督（平1政経卒）への取材を基に、二つの力の源泉に迫る。

＜写真提供：アフロ＞

明大在学時には2番を背負った室屋選手

明大時代、FC東京の練習に参加する室屋選手

室屋成 Sei Muroya

◆サッカー歴

▶5歳の時、サッカーを始める。日本代表のFW南野拓実（リバプール）と共に地元のゼッセル熊取に所属。中学3年次まではFWとしてプレーし、黒田剛監督の誘いもあり青森山田高に進学した。1年次の3月にはU―17日本代表に招集され、現在のポジションであるSBにコンバートする。J1のチームからもオファーがある中で明大に進学。リーグ戦では通算50試合に出場、2ゴール5アシストを記録した。3年次2月にサッカー部を退部し、FC東京に入団。2016年のリオ五輪にも招集され、翌年には初めてA代表に招集されると、これまで16試合に出場。昨年8月にはドイツのハノーファー96へと移籍し、公式戦で40試合出場、5アシストを記録している（9月27日現在）。

◆特徴

▶無尽蔵のスタミナと高いパス能力を生かした攻撃参加が特徴。明大で培った対人能力も高く、攻守に大きな弱点がない選手だ。

◆サイズ▶176㌢・70㌔。

◆プライベート

▶2018年に結婚し、19年には第一子となる長男が誕生。

◆神川　明彦（かみかわ・あきひこ）平1政経卒。1985年に明大に入学し、サッカー部に入部。卒業後は明大職員として働く傍ら、94年にはサッカー部のコーチに就任。2005年からは監督に就任すると、2度のリーグ優勝など、多くのタイトルを獲得。15年にはユニバーシアード日本代表監督としてチームを3位に導く。その後はJ3・グルージャ盛岡の監督を務めた。

取材全編はこちら!!
→神川前監督
←室屋選手

神川前監督が変えた組織の在り方

『良い種も良い土壌でなければ育たない』

個の力

高校卒業時、プロになるには実力が足りないと評価された選手が多数を占める大学の舞台。「次があるステージだからこそ個の力を伸ばすことを意識していた」（神川前監督）。〝個の力〟には、二つの軸がある。

まずは球際、切り替え、運動量の三原則。プレーの原点となる鉄則だ。午前6時からの朝練習では、試合を想定した対人練習を実施。三原則を徹底し、室屋選手や長友佑都選手（平21政経卒・現FC東京）のように世界の最前線でも通用する個を追い求める。「対人や一人で打開することにおいては、大学での学びがJリーグやドイツでも生きている」（室屋選手）。明大で培われた世界基準の〝個の力〟は、ドイツの地でも高い評価を得ている。

そして総勢90人の部員が日々激しく競争する環境だ。「1年次の先輩たちとのポジション争いが一番の思い出」（室屋選手）。学年関係なく全員がレギュラーを目指す中で、選手は飛躍的な成長を遂げる。輝かしい経歴を持った選手たちの中でも特別な意味を持つのが、セレクションを勝ち抜き入部した、スポーツ推薦以外の選手だ。日本代表の長友選手も一般生として入部し、レギュラーを手にした一人。エリート街道を歩んできたスポーツ推薦入部の選手を追い越し、レギュラーの座をつかもうと必死に努力する。そんな姿が部全体に刺激を与え、さらなる成長を促している。

人間力

「明大はプロの養成所ではない」。サッカー部の理念の一つだ。自身最も重視するのは〝人間力〟。自身の武器を理解し、組織に最大限貢献するための考え方を教え込む。その上で大切になるのが二つの柱だ。

一つ目は、神川前監督が始めた週に一度のミーティング。「自分の価値観や価値基準を伝え、選手に考えてもらう」（神川前監督）。プロ入りを目指す選手たちにとって、個のアピールは最重要課題。我が強くなるのは必然だ。しかし、サッカーはチームスポーツ。「組織としての考え方を学べたことが一番大きかった」（室屋選手）。いかに我を犠牲にし、チームの一人として勝利を目指せるか。神川前監督自身の明大職員としての経験や時には卒業生による講演を通して、組織のための協調性を教え込んでいる。

二つ目は、栗田大輔監督が重視する4年間のサイクルだ。1年目に戸惑い、もがく。環境に慣れた2年目には課題と新たな目標に気付く。3年目にはチームを担う責任を自覚する。そして4年目には、サッカー部を象徴する選手となる。この目的意識を持った4年間が、どんな環境でも実直に努力し、組織に貢献できる選手を育てている。

世界へ

「サッカーを取ったときに何も残らない人間であってはいけない」（小川佳純氏・平19商卒）。選手として伸び盛りの4年間を預かる大学が求められていること。それはどんな舞台でも通用する人材を育成することだ。「さまざまな業界への人材輩出クラブであってほしい」（神川前監督）。八幡山での日々は世界でも戦える力を形成したはずだ。偉大な先輩たちのように。明治発、世界へ。【土屋秋喜】

長友、室屋に続け
受け継がれる伝統〝2番〟の系譜

中村

常本

岡庭

明大サッカー部にとって背番号2は、チームをけん引するSBに与えられる、伝統の番号。長友選手や室屋選手も身にまとった2番の系譜は、今もなお脈々と受け継がれている。2019年度、2番を背負ったのは現在FC東京で活躍する中村選手（令2法卒）。100㍍を11秒台で走り抜ける圧倒的なスピードを生かした攻撃参加や、対人能力の高さが持ち味だ。今年4月にケガを負い、東京五輪出場はかなわなかったが、復帰後の活躍が期待される。

「代表に行ってもらいたい」と、神川前監督が期待を寄せるのは、昨年度の2番で現鹿島アントラーズの常本選手（令3政経卒）。サッカーIQが高く、明大在学時にはリベロで攻守の中心となり、5冠を獲得したチームをけん引した。プロ入り後はルーキーながら右SBのレギュラーに定着。名門で地力を高め、日本代表に招集される日が待ち遠しい。

現在、伝統の2番を背負うのは岡庭（政経4）だ。圧倒的な運動量や精度の高いクロス、強いメンタルを持ち合わせている姿は、長友選手をほうふつとさせる。FC東京への来季加入が内定している岡庭。〝長友2世〟として世界へ飛び出す日も遠くないはずだ。【新津颯太朗】

ホイッスル

「栄養がたっぷりだからたくさん食べな」。祖母の言葉とともに運ばれてくるのは、小皿に盛られたつくだ煮だ。甘辛く、炊きたての白米にはぴったりの味付け。食感が少し硬過ぎるが、それもまた祖母のつくだ煮だと実感する。要するにおいしいということだ。祖母がいるときにだけ食卓に並ぶ特別な料理。なぜか祖母と自分以外は手を付けない。「おいしいのに、何で誰も食べないんだろう」。それが子供の時にずっと疑問だった。しかし、味ではなく材料に問題があることに気付くのはそれから数年後になる◆材料はイナゴ、つまり虫である。自分以外の家族が手を出さないのは「材料が虫だから」。これに限る。母親はトラウマが強く、食べられない。高校時代の昼休み、弁当箱を開けたら白米のど真ん中に2匹乗っていたらしい。異物混入ではなく、異物を〝挿入〟しているところが面白い。「ワイルドじゃん」と返答したら「じゃあ（弁当に）入れてもいいんだな」と言われた。ふたを開けた瞬間の周りの反応が簡単に思い浮かぶ。これを言われてはさすがに何も返せない◆最近ではレストランや自動販売機でも昆虫食を見かける。〝未来食料〟として注目され、徐々に増えてきているようだ。地球環境を保護するために考案されたのだが、意外にも牛や豚よりもタンパク質を取ることができる。料理の写真も見たがしっかりと盛り付けされている分、小ぎれいに見えた。もちろん食欲が湧くような見た目はしていないが◆残念ながら昆虫の時代が来る前に祖母は他界した。生前になぜ小魚やノリではなく、イナゴを使うのかを聞いたことがある。祖母は「だって、おいしいじゃないか」とだけ返した。祖母以上にワイルドな人間を、自分は知らない【菊地秋斗】

学生図鑑
www.gakuseizukan.jp

レイアウト　土屋秋喜

MSM Meidai Soccer Management

一般社団法人　明大サッカーマネジメント
所在地：東京都港区西新橋2-23-1 東洋海事ビル8F（JSM内）
HP: https://msm.or.jp
Mail：meidai.soccermanagement@gmail.com

FUN CLUB
会員募集中!!
REGULAR 会員
年会費 3,300円(税込み)
特典
① 100周年記念限定会員証発行
② 会員限定コンテンツ
ご入会はサッカー部HPの「ファンクラブ」より

明治発
今年で明治大学サッカー部は創部100年になります。これまで数多くのプレーヤーを輩出してきました。今後も明治大学サッカー部をよろしくお願い致します。
世界へ
駿台蹴友会
明治大学サッカー部OB会